

日本共産党 目黒区議会議員

こんにちは

いも かわ

芋川 ゆうき 区政報告

住所：目黒区南3丁目在住 TEL：090-4206-2048

ツイッター・facebook公開中！お問い合わせ☒ <imokawa007@gmail.com>

いも お芋の「芋」に3本「川」
100%「ゆうき」

42号

国による“全世代型社会保障改悪”と区政

“年金”“医療・介護”“国保” まさに全世代への改悪と現状・目黒区がとるべき姿勢

2020年になり、2月の議会に向けて予算が編成されていく時期になりました。現在、国は「全世代型社会保障」という標語を掲げ、その実は消費税増税への“言い訳”として使ってきました。昨年10月に10%への増税が行われ、今後10年は消費税を上げないとし、社会保障充実を語れなくなった矢先、今度はひたすら社会保障抑制を叫び、「全世代」への負担増攻撃を打ち出しています。これは、社会保障の見せかけの財源案すらなくなった事実です。このような、悪政の中で基礎自治体である目黒区は区民のためにどのような姿勢をとるべきなのか、地方自治の役割をどのように発揮していくべきなのか、その姿勢が今問われています。

年金、医療・介護、、、 自治体を取り巻く様々な現状

マクロ経済スライドによる基礎年金三割カットが続けられようとしています。この「マクロ経済スライド」は、毎年度の年金改定で、物価・賃金指標にもとづく本来の年金改定率から、政府が計算する「マクロ調整率」の分を引くことで、年金を目減りさせていく仕組みです。これにより2046年度まで「調整」続き、基礎年金水準を三割減、給付額七兆円削減をするというものです。まさに“若者いじめ、低年金者いじめ”の年金削減といえます。

医療・介護についても、負担増と給付削減が広がっています。75歳以上原則2割負担など、医療費患者負担増の政府提案がされています。財政制度等審議会においても、▽高齢者医療の「現役並み所得」の対象拡大、▽医療機関で患者から窓口負担に上乗せして定額を徴収する

「受信時定額負担」の導入、▽市販薬品と同一の有効成分を含む医療用薬品の保険給付外し、▽薬剤費の一定額までの全額自己負担一などの患者負担増の提案が目白押しです。さらに、介護利用料原則2割負担、要介護1・2の保険給付外しが提案されています。こうした負担増と、給付抑制の推進は、所得の格差による治療格差、健康格差をさらに深刻化させるだけです。負担増による受診抑制やサービスの利用控えは、病気の早期発見を妨げて重症化させ、要介護状態の悪化にもつながるなど、かえって給付費増大を招きます。これは医療・介護の関係団体、後期高齢者医療広域連合協議会も負担増の中止を要望しています。さらに、患者負担増の推進には、日本医師会はじめ医療界から懸念の声も噴出しています。

基礎自治体の役割を全うし 声を上げ、行動を

国の悪政の動きの一つに国民健康保険があります。2018年に国は国保の「都道府県」がなされ、「保険者努力支援制度」という仕組みを導入しました。これは、“減点”というペナルティを課していくことを視野に入れながら、「繰入解消」「収納率向上」「医療費削減」などに自治体を駆り立てる危険性を持ち、問題になってきました。“減点”は予算が削減されます。まさに自治体を“兵糧攻め”している状態です。その一方、自治体に広がる国保抜本改革、公費負担増を求める声が起こっています。目黒区でもこうした改革の声を強く上げていくべきです。さらに、区による国保料独自減免など、たとえ、ペナルティが導入されても、自治体の判断で繰入をし、行動するべきです。

なんでも相談・法律相談

■1・2月日程 場所・芋川(星見)事務所

※なんでも相談(直接お越しください)

1月14・21・28(火)午後7時～

2月4・18・25(火)午後7時～ ※11日は法律相談ありません

※無料法律相談 1月14日(火) 午後7時



区議団無料法律相談

■1月16日(木) 午後2:00 ■2月13日(木)午後2:00

場所・目黒区役所5階共産党控室 要TEL:090-4206-2048(芋川)

芋川はココにいます！

■毎週火曜日 大岡山駅 7:30～8:30

■毎週金曜日 洗足駅 7:30～8:30

■イオンスタイル碑文谷 不定期土曜日

夏 16:00～ 冬 15:00～

※雨天中止

